



**公益社団法人日本環境教育フォーラム**  
**清里ミーティング2021@オンライン**  
**(通算35回目)**

**「遊んで、笑って、世界を変える」**

**報告書**

- 日 時：2021年12月5日(日)～11日(土)  
会 場：オンライン会議システム (Zoom)  
主 催：公益社団法人日本環境教育フォーラム  
後 援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、国立青少年教育振興機構、  
ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、  
NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議、一般社団法人日本環境教育学会  
協 賛：株式会社サンエー印刷  
損害保険ジャパン株式会社  
公益財団法人 SOMPO 環境財団  
SOMPO リスクマネジメント株式会社  
J-POWER (電源開発株式会社)  
日能研  
株式会社みくに出版

# 目 次

開催趣意	1
スケジュール	2
開会式	3
全体会	4
全体会 1 「2030 まであと 9 年。環境・教育で何に取り組む？」	4
全体会 2 「『共に生きる』を改めて考える～これからの生物多様性～」	5
参加者企画ワークショップ	6
12/6 (月)	6
12/7 (火)	9
12/9 (木)	12
10 分プレゼンテーション	17
その他の企画	18
清里ミーティングこれまでの実績	20

---

## 開催趣意

---

清里ミーティングは、1987年9月、自然体験・野外教育・環境教育に関心を寄せる人たちが山梨県清里に集まり「第1回清里フォーラム」を開いたことからスタートした。毎年、自然学校等の環境団体、企業、行政、教育機関等から約200名の関係者が参加し、環境教育に関心のある人たちの交流の場として30年続いてきた。環境分野以外の多様なステークホルダーとの協働も目指し、広く「持続可能な社会に貢献するひとづくりに携わる人たちの学び合いの場」として、多様性とパートナーシップによって環境問題・社会課題解決のヒントを探る。2018年には、「平成30年度持続可能な社会づくり活動表彰」（主催：公益社団法人環境生活文化機構）にて環境大臣賞を受賞した

2021年は35回目の開催として、昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染防止を目的にオンライン（Zoom）にて12月5日（日）～11日（土）の日程で実施した。

### ■ 清里ミーティングの目的

1. 最先端の情報や手法を学ぶ場を提供し、参加者の活動をエンパワメントする。
2. 参加者同士のネットワークを構築し、協働を促進する。
3. 1、2をもって持続可能な社会に向けて行動する人を増やす。

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に向け、環境教育だけではなく、他分野とのパートナーシップがより重要となってくる。清里ミーティングも環境教育以外のより広い分野からの参加者を募り、新しいコラボレーションが生まれることをねらっている。お互いの活動を理解し、認め合い、共に考え、力を合わせていける場の基盤づくりを目的としている。

### ■ 清里ミーティングの特徴

清里ミーティングの最大の特徴は、参加者が“主役”であること。どのようなことについて話し合い、共有し合うのか、参加者主体でつくり上げていくという性格を持つ。主催側で企画したプログラムのほかに、参加者の中からプログラムを企画・実施する方を募って開催している。

### ■ 今年の特徴

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続きオンラインで日本、そして世界をつなぎながら、新たな環境教育の可能性を探っていく。また、期間を1週間で開催し、子ども参加可能なワークショップを設定したりすることで、多様な参加ニーズに応える“誰ひとり取り残さない”ミーティングを目指した。

SDGsのような複雑に絡み合う現代の諸問題を解決していくために必要な、豊かな想像力と柔軟な創造力。私たちは、それを自然の中で遊び、自然から学ぶことで身に付けてきた。遊びはずっと変わらず身近にあるが、どんどん自然から遠いところで行われるようになっていく。

「自然から遠ざかれば、心は固くなる」という、ネイティブアメリカンに伝わる教えがあるが、固くなった心でいくら考えても、世界をトランスフォームするような創造的なアイデアは出てこないと考える。不安の多い時代だからこそ、「遊び心」を大切に、環境教育や自然体験の取り組みから、世界を変える楽しいアクションを生み出すことを目指した。

## スケジュール

日 時： 2021年12月5日（日）～ 11日（土）  
 会 場： Zoom（テレビ会議システムを用いたオンライン開催）  
 主 催： 公益社団法人日本環境教育フォーラム

### ■ タイムスケジュール

	5(日)	6(月)	7(火)	8(水)	9(木)	10(金)	11(土)
10:00 -11:30		10:30-12:00 トークショー	10:00-17:30 参加者企画 ワークショップ				10:00-11:30 自然学校 オンライン ツアー
11:30 -14:00	13:30-14:00 開会式			13:30-14:45 市民のための 環境公開講座	10:00-20:00 参加者企画 ワークショップ		
14:00 -15:30	14:00-16:00 全体会1	14:00-20:00 参加者企画 ワークショップ					14:00-16:00 全体会2
16:00 -17:30	16:30-19:00 10分プレゼン			16:00-20:00 JEEF企画 セッション			16:00-16:30 閉会式
18:30 -20:00	19:30-21:00 情報交換会		19:30-21:00 トークショー			18:30-20:00 自然学校ナイト	18:30-21:00 情報交換会
20:00 -21:00							

### ■ オンラインプロフィール集

今年度も「Proff（オンラインプロフィール作成サービス）」  
 を用いて参加者のプロフィール集を作成した。



Proff ページサンプル

# 開会式

開会式 ※敬称略

司 会 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 事務局長 加藤超大  
 主催者挨拶 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 会長 岡島 成行  
 来賓挨拶 : 環境省 自然環境局長 奥田 直久



主催者挨拶



来賓挨拶

また、JEEF 事務局長の加藤から参加者の皆様へ一週間のスケジュールを紹介した。

		清里ミーティング2021開催概要						
		5(日)	6(月)	7(火)	8(水)	9(木)	10(金)	11(土)
10:00	-11:30		10:00-11:30 トークショー					10:00-11:30 自然学校 オンライン ツアー
11:30	-14:00		11:30-14:00 開会式	10:00-17:30 参加者企画 ワークショップ	13:00-14:45 環境のための 意識創出講座	10:00-20:00 参加者企画 ワークショップ		
14:00	-15:30	14:00-15:00 全体会1					14:00-16:00 全体会2	
16:00	-17:30	16:30-18:30 20分プレゼン	14:00-20:00 参加者企画 ワークショップ		16:00-20:00 JEEF企画 セッション		15:00-16:30 開会式	
18:30	-20:00	18:30-21:00 情報交換会		19:30-21:00 トークショー		18:30-20:00 県が統ナリ		18:30-21:00 情報交換会
20:00	-21:00							

全体会1 「2030 まであと 9 年。環境・教育で何に取り組む？」

SDGs のリミットである 2030 年まであと 9 年。

9 年という時間は、小学 1 年生が中学卒業をし、中学 1 年生が大学 3 年で職業選択を意識するようになり、初任者が中堅に差し掛かるという、人づくりにおける 1 つの区切りです。近年の人づくりにおける潮流として、理数探究などのプロジェクト学習を通して、科学的リテラシーを持って情報を読み解いていく力や、他者との協働を促すコミュニケーション能力などの育成が年齢、業種に限らず求められています。

悪化し続ける人と自然の関係を本質的に変革するために、環境、そして教育の領域でこれからの 9 年間何に取り組んでいくのか、3 名のゲストとともに探っていきます。

**全体会1** 12/5 (日) 14:00-16:00

# 2030まであと9年。 環境・教育で何に取り組む？

**堅達京子氏** (NHKエンタープライズ  
エグゼクティブ・プロデューサー)

**美馬のゆり氏** (公立はこだて未来大学 教授/  
UC Berkeley AIラボ客員研究員)

**山藤旅間氏** (新渡戸文化学園小中学校  
・高等学校 統括校長補佐  
(学校デザイナー))

<ファシリテーター>  
**鴨川光**  
(日本環境教育フォーラム/  
ジャパンGEMSセンター)

ファシリテーター：

鴨川 光 (公益社団法人日本環境教育フォーラム/ジャパン GEMS センター)

ゲストスピーカー：

- ① 堅達 京子 氏 (NHK エンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー)
- ② 美馬 のゆり 氏 (公立はこだて未来大学 教授/UC Berkeley AI ラボ 客員研究員)
- ③ 山藤 旅間 氏 (新渡戸文化学園小中学校・高等学校 統括校長補佐 (学校デザイナー))

## 全体会2 『共に生きる』を改めて考える～これからの生物多様性～

今年10月に第一段階が開催される生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）。生物多様性の次の国際ルール「ポスト2020生物多様性枠組」など、持続可能な社会の実現に向けて今後のロードマップが検討されます。そこでの議論を踏まえた生物多様性の最新情報をご紹介します。

コロナやオリンピックなど、身近な話題に目が行きがちだった昨今。自然、生きもの、人間が共に生きていくことに改めて目を向け、地球上のあらゆる生命を維持し、人々と自然が恩恵を得るためにどのようなアプローチができるのか、3名のゲストとともに探っていきます。

**全体会2** 12/11 (土) 14:00-16:00

# 『共に生きる』を改めて考える ～これからの生物多様性～

**五箇公一氏** (国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・対策研究室 室長)

**道家哲平氏** (日本自然保護協会 広報会員連携部長 / IUCN日本委員会 事務局長兼副会長)

**藤田香氏** (日経ESGシニアエディター / 東北大学教授)

<ファシリテーター>  
**矢動丸琴子氏**  
(一般社団法人 Change Our Next Decade 代表理事)

ファシリテーター：

矢動丸 琴子 氏 (一般社団法人 Change Our Next Decade 代表理事)

ゲストスピーカー：

- ① 五箇 公一氏 (国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・対策研究室 室長)
- ② 道家 哲平氏 (日本自然保護協会 広報会員連携部長/IUCN 日本委員会 事務局長兼副会長)
- ③ 藤田 香氏 (日経 ESG シニアエディター/東北大学 教授)

## 参加者企画ワークショップ

参加者自身が企画・実施者となるワークショップを開催した。実施者でない参加者は自身の興味・目的に合わせて参加プログラムを選択し、各ワークショップで参加者同士の活発な意見交換が行われた。

実施のあったワークショップは以下の通り。

### 12月6日（月）

#### ◆森好きが育つ場所白神山地～森のすごさと地域の課題と未来～

日本最初の世界自然遺産白神山地。原始の森をプロが撮影した動画とともにご紹介します。世界遺産の森の意味とは？そして東北の森はしみじみと最高！そして美味しい！一方遺産エリアは厳しく守られているけどそれ以外の地域は？森の良さを伝え広く知ってもらい難しさや自然公園周辺地域の課題をこれから白神を担う若いスタッフと考えませんか？



時間：14時00分～15時30分

定員：なし、大人のみ

実施者：佐藤和明（環白神エコツーリズム推進協議会）、管沼慶太、白鳥万里（以上、白神山地世界遺産センター（藤里館）活動協議会）

#### ◆アートの入り口～もっと教育に遊びゴコロを！～

ものづくりだけがアートじゃない！自分なりの「見方・感じ方」に焦点を当てた遊びを通して、アートの要素をひも解くワークショップです。アートのエッセンスをもっと教育に取り入れるには？感性をフル活用しながら、みんなで一緒に考えましょう。



時間：14時00分～15時30分

定員：15名、大人のみ

実施者：東村ほのか（武蔵野美術大学 卒業生）

#### ◆どうしたらいいの？“行動変容” 実行へつなげるための方法を考えよう

生物多様性や環境問題に関心を持ってもらい、行動に移してもらうためにはどうすればいいのでしょうか？弊団体が提唱している「COND 行動変容モデル」を用いて、参加者の皆さんと効果的な行動変容について一緒に考えるワークショップです。



時間：14時00分～15時30分

定員：20名、大人のみ

実施者：浅岡永理、芝崎瑞穂、矢動丸琴子、佐々木春佳、高田健司（以上、一般社団法人 Change Our Next Decade）

### ◆ポッドキャスト公開収録！環境教育ラジオ『私の本棚』

日本環境教育フォーラムが9月からスタートしたポッドキャスト（音声配信）。環境教育実践者や研究者をゲストにお迎えし、活動、研究、そして人生に影響を与えた「私の1冊」をご紹介します。ワークショップでは録音、編集のやり方、実際にお見せします！参加の方は、ご自身の「私の1冊」をぜひご用意ください。



時 間：14時00分～15時30分

定 員：なし、大人のみ

ゲスト：國司眞 様（跡見学園女子大学兼任講師 国立天文台特別客員研究員）、長谷川博 様（東邦大学 名誉教授）  
実施者：垂水恵美子、中地愛（以上、日本環境教育フォーラム）

### ◆「保育と自然・環境教育」情報交換会

「保育と環境教育」に関心のある方同士で、これまで幼稚園、保育園、こども園などで「こんなことしてるよ！」とか、これから「こんなことしたいな」など、ざっくばらんな意見交換の場にします。また保育と環境教育のネットワークを作ればと考えています。



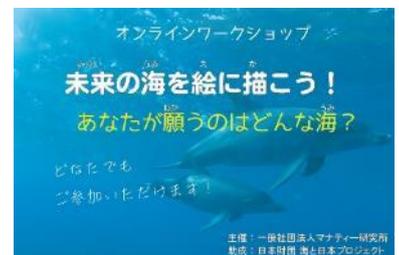
時 間：16時00分～17時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：神田浩行（一般社団法人くすのき自然クラブ 他）、増田直広（鶴見大学短期大学部）、長谷川幸子（一般社団法人日本インタープリテーション協会）

### ◆未来の海を絵に描こう！- あなたが願うのはどんな海？-

海にはたくさんの生きものがくらして、私たちも海からの恵みをたくさんうけています。でも、ゴミが増えたり、汚れたり、環境が壊されたり、大きな問題が起きています。みなさんが思い描く未来の海は、どんな海ですか？絵を描いて海のことを考えてみましょう。



日 時：16時00分～17時30分

定 員：なし、子ども参加可

実施者：菊池夢美、富田明広（以上、一般社団法人マナティー研究所）

### ◆自然学校スタッフの日常のスキルは、被災地支援のコーディネーターに役に立つ

RQ では、いつ起きるやもしれない大規模自然災害に備え、発災時に支援の拠点となるネットワークづくりを進めています。自然学校の日常業務を活かしてコーディネーターに。コーディネーターの人づくりを始めます。



時 間：16時00分～17時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：森高一（一般社団法人 RQ 災害教育センター）、塚原俊也（くりこま高原自然学校）

### ◆ミニチュアお節のペーパークラフトで、『敬い』と多様性を考えよう

ミニチュアお節のペーパークラフト、鏡餅の起き上がりこぼし、折り紙を通じ、お正月料理に込められた感謝・願い・敬いや、ユネスコ無形文化遺産「和食」における「自然の敬い」、異文化理解・文化の多様性を考えます。



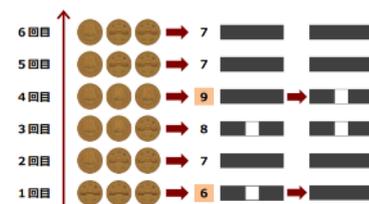
時 間：16時00分～17時30分

定 員：なし、子ども参加可（6歳以上）

実施者：海老原誠二（いただきます.info）、松橋淳一（一般社団法人はしわたし研究所）

### ◆占い×SDGs～地球と僕らの未来を占う

2030年のSDGs最終年、どれだけの目標が達成されているのでしょうか？また、その際の課題は何なのでしょう？この点を『占い』で予測します。参加者の皆さんには一時的に「占い師」になっていただき、楽しく2030年を描こうと思います。



時 間：18時30分～20時00分

定 員：調整中、大人のみ

実施者：中西紹一（有限会社プラス・サーキュレーション・ジャパン）

### ◆大人だって絵本が好き！～おもしろそう！そうなんだ！を絵本と共に～

絵本にはさまざまな魅力が隠れています。今回は絵本をきっかけに学びがはじまったり、深まったりする可能性を皆さんと考えます。参加者の皆さんがワークショップなどで使っているお気に入り絵本があったらぜひ持ち寄って語り合しましょう。絵本を使う際の留意点（著作権）についても簡単にご紹介します。



時 間：18時30分～20時00分

定 員：20名、大人のみ

実施者：武石泉（ちえの木の实／日能研）

### ◆子どもたちに「ライフジャケット」を！—思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること—

リスクの高い水辺で、安全性を飛躍的に高める「ライフジャケット」について、なぜ準備することが必要なのか？管理者の責任は？ここ数年で大きく動いている水辺の安全、そして「ライフジャケット」のことについてお伝えし、環境教育に関わるみなさんとともに、子どもの命を守ることにについて考える時間にしたいと思います。



時 間：18時30分～20時00分

定 員：なし、大人のみ

実施者：森重裕二（子どもたちにライジャケを！）

### ◆いま実現したい「LIFESHIFT」の生き方はたらき方

コロナ影響により私たちは過去に経験したどの瞬間よりも大きな変化に向き合い、これから先の生き方・はたらき方を考え始めています。書籍『LIFE SHIFT』のエッセンスを紐解きながら、そのヒントを見つける時間です。



時 間：18時30分～20時00分

定 員：30名、大人のみ

実施者：芦沢壮一（スキルノート）

### 12月7日（火）

#### ◆地域や社会の課題をSDGsで整理して考えてみよう。

SDGsをどのように考え、活用すれば課題の解決につながるかを考えます。個人とSDGsのつながりや、地域課題とSDGsとのつながりを考え、解決に向けたアイデアを考えるワークショップです。



時 間：10時00分～11時30分

定 員：なし、子ども参加可（高校1年生以上）

実施者：星野智子（一般社団法人環境パートナーシップ会議）

#### ◆地域の宝をどう磨く？～「そこならではの価値に光をあてる～インタープリター奮闘中！～」

今年度八ヶ岳で進行中の「地域の歴史と酪農景観を活かしたツアー基盤造成（途上）」の話題提供をもとに、「地域にいいものいっぱいあるんだけど、もったいない」を動かしていくあれこれを一緒に考えましょう。



時 間：10時00分～11時30分

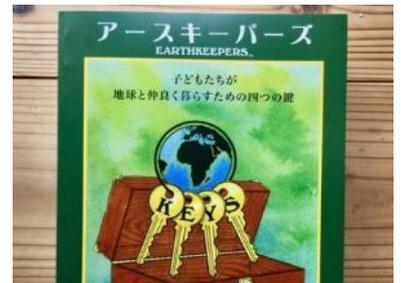
定 員：なし、大人のみ

実施者：鳥屋尾健（公益財団法人キープ協会）

#### ◆地球と仲良く暮らすための4つの鍵（KEYS）！？SDGsウォッシュで終わらない環境教育を考えよう

～環境教育のオルタナティブ“Earth Education（地球教育）”のモデル・プログラム“EARTHKEEPERS”の試みを通して～

公害教育・環境教育・ESDそしてSDGsと、環境問題の本質は変わらないのにその時々で流行りで右往左往。このままでは、SDGsウォッシュならぬ環境教育ウォッシュになりかねない状況です。そこで本WSでは、広島で提供が始まった、EARTHKEEPERS”を紹介しつつ、SDGs時代に求められる環境教育のあり方を探りたいと思います。



時 間：10時00分～11時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：大滝あや（地球教育研究所 日本支部）、花村育海（NPO 法人ひろしま自然学校）

### ◆こども達が自分の力を発揮できる環境をつくろう！～ヘンテコな世界観のワークショップの事例から～

私達は「毎日の当たり前をワクワクに！」をコンセプトに、ヘンテコでファンタジーな世界観で身の周りのもの・ことと遊ぶ、こども向けワークショップや参加型ショーを企画実施しています。私達が今まで実施してきたワークショップの事例紹介と、ミニワークを通して、参加者の皆さんと一緒に「こども達が自分の力を発揮できる環境」について考えます。



時 間：10時00分～11時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：なおやマン（sakumo 佐久市子ども未来館 館長）、しま：アイ（こどもヘンテコまほうラボ 所長）

### ◆自然は自分の中にある～身体の資源、使えていますか？～

生活が便利になったことで、からだを動かさない生活に慣れてしまった現代人。足首や背骨は普段どれだけ使っていますか？足指や足裏、視覚の感覚はどうでしょう？コロナ禍でオンライン化が進み、大人だけでなく子供も身体を動かさなくなっている昨今。からだの資源を目覚めさせるボディワークと対話を通し、自然体験の効果をからだの面から考えます。自分のからだと向き合ってみませんか？



時 間：14時00分～15時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：増田泰子（BeAct）、鴨川光（日本環境教育フォーラム）

### ◆八ヶ岳自然ふれあいセンター館内オンラインツアー&ビジターセンター展示・教材情報交換会

with コロナの状況も間もなく丸2年。度々の臨時休館も経験しました。そんな中、展示や教材のブラッシュアップに試行錯誤しています。ビジターセンターなどの展示や教材について、あれこれ情報交換しましょう。



時 間：14時00分～15時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：関根健吾（公益財団法人キープ協会）

### ◆服・ファッションからサステナビリティを考えるワークショップ

DEAR では「服」に焦点を当てた新教材を作成中です。服の原材料の生産・製造・の過程では、農薬や化学薬品により自然環境が汚染され、大量の温室効果ガスが排出されています。また、重大な労働問題・人権侵害も起こっています。服をサステナブルに、「豊かに」楽しむためには…？作成中の教材へのご意見・ご提案もお寄せください。



時 間：14時00分～15時30分

定 員：30名、子ども参加可（15歳以上）

実施者：八木亜紀子、岩岡由季子（以上、認定NPO法人 開発教育協会（DEAR））

#### ◆東京港野鳥公園で「渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える」野鳥観察

安西英明氏（日本環境教育フォーラム理事）とともに、環境教育の施設として歴史ある都立東京港野鳥公園から、その自然環境や施設の役割、これから冬を迎える鳥たちの生き様や、人と鳥と自然のつながりなどについてライブ配信でフィールドを巡りながら紹介します。堀内千種さん（SOMPO 環境財団 CSO ラーニング生）を聞き役として、チャットでお送りいただいた質問にも講師から回答いたします。（写真は前回の様子）



時 間：14 時 00 分～15 時 30 分

定 員：なし、子ども参加可（小学生以上）

実施者：安西英明、堀内千種（日本環境教育フォーラム インターン）、京極徹（日本環境教育フォーラム）

参 考：日本野鳥の会サイト

#### ◆野外フェス×環境教育～ハイライフ八ヶ岳の可能性を探る作戦会議～

キャンプ場など自然環境が豊かなフィールドで行われている野外フェスですが、実は自然エネルギーの活用や、積極的なゴミの分別など、環境に配慮した多くの取り組みが既に行われています。実際の事例を紹介しつつ、八ヶ岳で開催される野外フェス「ハイライフ八ヶ岳」をモデルに、参加者のみなさんと野外フェスでの環境教育の可能性を探っていきます。

※スピーカー：鈴木幸一、長野修平、萩原ナバ裕作、金子潤、久留島太郎 ほか



時 間：16 時 00 分～17 時 30 分

定 員：なし、大人のみ

実施者：鈴木幸一（アースガーデン・オフィス）、村上友和（株式会社自然教育研究センター）

#### ◆ねんどをこねて未来を変える！

子どものころに夢中でこねたねんど。その触感や柔軟性が子どもたちの創造性や共感性を育むと改めて注目されています。ねんどメーカーと GEMS（※）がタッグを組んで開発したねんどワークショップを体験しつつ、ねんどを使って他にどんなことができるか教育利用の可能性を探っていきましょう。

※カリフォルニア大学で開発された科学・数学の体験学習プログラム



時 間：16 時 00 分～17 時 30 分

定 員：20 名、子ども参加可（小学生以上）

実施者：石森昌子（日清アソシエイツ）、鴨川光、柴原みどり（以上、ジャパン GEMS センター）

### ◆気候変動を自分事化して考えるために

人類の活動が気候変動・温暖化の主因であることは「疑う余地はない」と IPCC が報告しています。この WS では気候変動の主因とされるエネルギー消費のこれまで等を概観し、自分事として温暖化防止に取り組むための切り口、これからの環境教育に求められること等について皆さんと話し合います。



時 間：16 時 00 分～17 時 30 分

定 員：なし、大人のみ

実施者：藤木勇光、高田研（以上、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）

### ◆企業との協業を考えるゆるっとカフェ～企業と環境とサステナビリティと～

今、ビジネス界では SDGs やサステナビリティがトレンドになっており、自社だけでなく、他業界との協働を模索している所も少なくありません。環境・自然・サステナビリティなどの分野と、企業との協業は必要なのか？どんな関係性が良いのか？企業と環境の歴史を紹介しつつ皆でゆるっと考えます。好きな飲み物とお菓子をご用意してご参加ください。



時 間：16 時 00 分～17 時 30 分

定 員：20 名、子ども参加可（小学 5 年生以上）

実施者：田中咲子（会社員）

## 12 月 9 日（木）

### ◆学びの役割再考～社会変容につながる全体地図を考えるキックオフ

あなたの私たちは何のために学びの場（例えば：環境教育）を創っているのか？パネルディスカッションのゲストは、石井徹さん（日本環境ジャーナリストの会）、奥田直久さん（環境省）、星野智子さん（環境パートナーシップ会議）。それをきっかけに、参加者の学びから意識変容～行動変容～そして社会変容に繋がるプロセス全体地図を描く。これは、学びの役割を再考するキックオフミーティングです。ぜひご一緒しましょう！



時 間：10 時 00 分～11 時 30 分

定 員：なし、大人のみ

実施者：川嶋直（公益社団法人日本環境教育フォーラム）、飯島邦子（株式会社プロセスラボラトリー）

### ◆レジ袋の有料化って実際どうなの？あなたの考えを教えてください！

みなさんはレジ袋有料化についてどう思いますか？有料化してから1年以上経った今、日常生活の中で変わったこと、意識の中で変わったこと、それはどんな変化なのか、みなさんの意見や考えを共有しましょう！



時 間：10時00分～11時30分

定 員：20名、子ども参加可（中学生以上）

実施者：矢倉美励、千葉香恵、澤田櫻、佐藤啓有、矢動丸琴子（以上、千葉大学環境教育学研究室）

### ◆みちのく自然学校カフェ

東北の自然学校の今を地元出身者や移住者、若者や子育て世代目線でパネル&カフェトーク。遠くてなかなか会えない東北の仲間たちとオンラインなら気軽に出会えます。お茶を飲みながら、SDGs、環境教育、自然学校、持続可能な暮らしなどの話題に花を咲かせましょう。



時 間：10時00分～11時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：塚原俊也、塚原茉衣子（以上、くりこま高原自然学校）、谷口哲郎、生田香織（以上、つがるの自然学校）、進士陽平（あぶくまNSネット）、豊留雄二（自然遊びクラブ）、和田祐樹（ホールアース自然学校福島校）、土屋美香（森のようちえんこめらっこ）

### ◆みんなで「つくる」ソーシャルアクションガイドブックの制作と共有～超文化祭より～

超文化祭とは、持続可能な未来に向けて、学校を超えて、行動をしたい学生と、学生と一緒に未来を作りたいという大人が、毎年200名ほど集まり、一緒にソーシャルアクションを生み出すきっかけとするアイデアを表現し合う次世代型の文化祭。そんな中、アイデアを具体化するまでに悩む声が多く聞かれます。参加者のみなさんとソーシャルアクションを生み出す始めの一歩を共有し合い、みんなのための「ソーシャルアクションガイドブック」の作成を目指します。



時 間：14時00分～15時30分

定 員：20名、子ども参加可（中学生以上）

山藤旅聞、奥津憲人、白田侑子（以上、新渡戸文化学園）

### ◆デイリー シェアリングネイチャー（自然に気づくネイチャーゲーム）

日々の生活の中に、身近な自然の営みを発見したり、心を落ち着かせて「いまここ」を味わったりするネイチャータイムがもてたら素敵だと思いませんか。そんな時間をもつためのセルフでできる「自然に気づくネイチャーゲーム」をご紹介します。



時 間：14時00分～15時30分

定 員：45名、大人のみ

実施者：新井利佳、三好直子、去田ゆかり（以上、日本シェアリングネイチャー協会）

◆虐待、貧困、不登校…様々な困難を抱える子どもたちへ、私たちは何が出来るのか？

～「子どもの課題×自然・野外」作戦会議

子どもに関わる社会課題に、自然体験・野外教育が果たせる役割は、どんなモノがあるのか？どうしたら困難を抱える子どもに自然体験・野外教育を届けられるのか？そのような子どもたちは、馬や自然と出会い、どの様な変化・成長があるのか、実施する上での課題など、現場での気づきを共有します。さらに、みなさんと、知恵やアイデアを出し合い、自然体験・野外教育が、子どもの課題に対して、お役立ちできることを探っていきましょう。



時 間：14時00分～15時30分

定 員：10名、大人のみ

実施者：黍原豊（一般社団法人三陸駒舎）

◆全部見せます！答えます！YouTubeチャンネル・You虫部のトライ&エラー

始めて1年11ヵ月。月3本で60本UP。チャンネル登録者数は740名。普段は、こんな形でやってます。ときには失敗もありました。うまくいったこともあります。あなたも動画への一歩、はじめてみませんか？（動画編集を実際に行うことは時間の都合上扱いません）



時 間：14時00分～15時30分

定 員：なし、大人のみ

実施者：小野比呂志（NPO ホールアース研究所）、松尾章史（株式会社ホールアース）

◆自然学校を立ち上げる時のポイントと連携のあり方を考える

オンラインアイスブレイク体験、教師経験と自然体験業界経験から学んだことのプレゼン、これから自然学校を作るときの大切にすることと、自然学校関係者、大学生、地域の方と連携のあり方を意見交換しあって探ります。



時 間：16時00分～17時30分

定 員：なし、子ども参加可（小学1年生以上 ※大人と参加ならば幼児も可）

実施者：小林伸治（NPO 法人蓼科・八ヶ岳国際自然学校 他）

◆小学生から始める 地球のけんりせんげん～ゴミに命を吹き込もう～

ゴミという意識・見方を変え、ゴミだと思っていたものを生まれかわらせよう。くふうしてアップサイクルし最後まで使い、じゅんかんしてむだをなくそう。そして、みんなで仲良く世界で楽しく暮らせるように協力してごみゼロを目指そう。昨年の清里ミーティングで注目を集めた小学生たちが、活動を拡大して今年度はワークショップにチャレンジします！



時 間：16時00分～17時30分

定 員：なし、子ども参加可（4歳以上）

実施者：あつひこ<小2>、まなみ<小5>、いくま<小2>、かずま<小4>（以上、Save the clean earth）

### ◆大変だけれど楽しい本づくり

環境教育に携わる方はみな「思い」を持っているもの。その思いを伝える手段のひとつが本を書くこと。このWSでは「出版」にまつわるアレコレを一緒に考えてみます。どうやったら本ができるの？から、実際に本を作ってみての苦労話、伴走する編集者としての思いなどをインタープリテーションやファシリテーショングラフィックの話とからめながら紹介していきます。



時間：16時00分～17時30分

定員：30名、大人のみ

実施者：志賀壮史（NPO 法人グリーンシティ福岡）、安修平（りょうゆう出版）、菊間彰（一般社団法人をかしや）

### ◆自然学校が行う学童保育の紹介

長野県の泰阜村にある自然学校が、村の委託で行っている「放課後児童クラブいってきました」の事業を紹介します。地域の自然や文化を織り交ぜ、こどもたちとやりたいことを話し合いながら活動しています。開設して7年目。現在はこどものやりたい様々な遊びを通じて自律した人を育むことを目指しています。そんな学童の苦労話や、実際の活動の様子お伝えします。



時間：16時00分～17時30分

定員：なし、大人のみ

実施者：堀切大輔、清水綾乃（以上、NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター）

### ◆仕事？家庭？自然学校若手経営者のワークバランスを考える

自然学校の活動は生き方そのもの。「仕事」とプライベートを切り離すことはできない働き方だと思っています。しかし、お金を稼ぐ「食い扶持」あることも事実。働き方改革が叫ばれる昨今、ワークバランスを模索しながら試行錯誤する若手経営者の生の声をトーク形式でお伝えしながら意見交換しましょう。



時間：18時30分～20時00分

定員：なし、大人のみ

実施者：遠藤準（サシバの里自然学校）、真山高士（那須高原自然学校）、塚原俊也（くりこま高原自然学校）、守屋謙（ガイア自然学校とやま）

### ◆教育について考えよう

これからの教育（環境教育に限らず）について考えませんか？集まった皆さんの関心や問題意識によって対話が紡がれ、穏やかに、深く、教育について思いを巡らせていきます。思いを語り、明日を見つめて今を歩いていくヒントを探る、そんな時間です。清里で輪になって語った、あのイメージで自由に語り合しましょう。



時間：18時30分～20時00分

定員：なし、大人のみ

実施者：高木幹夫（日能研）

◆CSO ラーニング卒業生のイマ～NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成～

SOMPO 環境財団では「木を植える人を育てたい」という思いから、大学生・大学院生を NPO・NGO へ長期インターンとして派遣する CSO ラーニング制度を 2000 年より実施しています。様々な分野で活躍する OB・OG をお招きし、CSO ラーニング制度の経験が「イマ」にどのように活かされているのかをお聞きします。



時 間：18 時 30 分～20 時 00 分

定 員：なし、大人のみ

実施者：加藤超大（日本環境教育フォーラム）、伊藤邦泰（府中市市民活動センタープラッツ）、原智美（国立国会図書館）、引地慶多（国際航業株式会社）

◆『飛び出す江戸の町並み図絵』ペーパークラフトで、RRRDR と資源、文化の多様性を考えよう

江戸は、刃物研ぎや桶直し・古着売りなどが往来し、衣食住、エコな町だと言われます。『飛び出す江戸の町並み図絵』ペーパークラフト、陶磁器の繕い等を参考に、当時の人と環境、2R と RRRDR、文化の多様性を考えます。



時 間：18 時 30 分～20 時 00 分

定 員：なし、子ども参加可（6 歳以上）

実施者：海老原誠治（いただきます.info 他）、松橋淳一（一般社団法人はしわたし研究所）

## 10分プレゼンテーション

短いプレゼンを通して他の参加者とつながるきっかけをつくる、通称「10分プレゼン」を実施した。参加者は、自身の活動を紹介して仲間を募ったり、悩みを共有してほかの参加者からアドバイスをもらったりした。

16:30	【全体】オリエンテーション(進め方・部屋の移動方法等)		
	Room A	Room B	Room C
	清水	鴨川	加藤
16:45	白川郷学園におけるサバイバル教育の取り組み 佐藤翔太郎(トヨタ白川郷自然学校)	当学会は実践家と研究者が交流する場です！ 中村和彦、秦範子、田開寛太郎(日本環境教育学会)	サステナブルな養殖まるわかりクイズ！ 宮本佳奈、菊地梨香、池田海里、本宮圭汰、中田隆樹(早稲田大学文化構想学部高野ゼミ)
16:55	フィードバック・移動		
17:00	海のない山梨からプラスチックごみを考える 日向治子(山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト)	ホースセラピーって儲かる？ 事業化と今後の展開 黍原豊(一般社団法人 三陸駒舎)	若者が伝える！奄美大島の生物多様性と文化 芝崎瑞穂(一般社団法人 Change Our Next Decade)
17:10	フィードバック・移動		
17:15	ヤクザルな夏休み～ヤクザル調査報告会～ 平川瑠菜(帝京科学大学)	SOMPOグループのサステナビリティの取り組みについて 岡本かなえ(損害保険ジャパン株式会社)	地域とつながる青少年教育施設の運営 白井健(南房総市大房岬自然の家)
17:25	フィードバック・移動		
17:30	SOMPO環境財団 CSOラーニング制度のご紹介 瀬川敬太(公益財団法人 SOMPO環境財団)	休学体験談～7つの地域で暮らした1年間～ 河合千尋(東京農工大学地域生態システム学科)	日中韓環境教育ネットワーク(Teen) 中地愛(日本環境教育フォーラム)
17:40	フィードバック・移動		
17:45	とちぎ森のようちえんネットワークの取り組み 遠藤隼(サシバの里自然学校)		企業における生物多様性の主流化に向けて 加藤拓(経団連自然保護協議会)
17:55	フィードバック・退出		
18:00	検索するだけで森林に貢献できるMolick 渡邊匠海(株式会社Molick)		学校横断 食品ロス削減給食、支援の取り組み 海老原誠治、松橋淳一(はしわたし研究所、いただきます.info、三信化工)
18:15	フィードバック・退出		
18:20	Close	Close	Close

---

## その他のプログラム

---

参加者同士の交流を促すプログラムを JEEF が企画し、実施した。

### ◆情報交換会 12/5（日）19:30 - 21:00、12/11（土）18:30 - 21:00

オンラインで日本中の環境教育者をつながる交流の場です。話したいテーマごとに分かれた小部屋を自由に行き来しながら、さまざまな話題に触れることができます。

さらに、自然学校や環境教育施設に就職したい（募集したい）、つながりたいという人向けのマッチンググループも開設。こんな人をつながりたいとリクエストをいただければ、専門のスタッフがおつなぎいたします。

食べながら、飲みながら、耳だけ参加、途中入退室 OK、いろいろな形でご参加いただけます！

### ◆トークショー1「長距離自然歩道を歩こう！」 12/6（月）10:30 - 12:00

手軽に、楽しく、安全に自らの足で歩くことを通じて、四季折々の豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身のリフレッシュと自然保護に対する理解を深めることを目的とした長距離自然歩道。

今年度から自然歩道功労者表彰の推薦団体となった日本環境教育フォーラムと、実際に長距離自然歩道の整備や管理にかかわる3名のゲストが、その歴史や取り組みを紹介するとともに、自然体験活動等とのコラボレーションを考えていきます。

<ゲスト>

神田 修二氏（いであ株式会社 国土環境研究所生物多様性研究 センター長）

福島 優氏（九州自然歩道フォーラム 事務局長）

西澤 美幸氏（みちのくトレイルクラブ みちのく潮風トレイルサテライト区間担当）

### ◆トークショー2「捨てない暮らしとレトロイノベーション」 12/7（火）19:30 - 21:00

パンが売れ残ることのない「捨てないパン屋」田村陽至さんと、暮らしの中でゼロウェイストやプラスチックフリーに取り組んでいる翻訳家・服部雄一郎さん。ごみを減らしつつ心豊かな暮らしを心がけている2人の対談です。

暮らしの中に昔ながらの知恵を取り入れてみると、意外に機能性も、気持ちも、いろんなものがすっきりします。新しいアイデアで問題解決を図るのもよいけれど、昔に戻ることで未来へ進む“レトロイノベーション”を一緒に考えてみませんか？ ごみ削減の第一歩をどう始めたらいいかわからないという方に聞いていただきたい、ちょっと目先を変えるお話です。

<ゲスト>

田村 陽至氏（ブーランジェリー・ドリアン）

服部 雄一郎氏（翻訳家）

### ◆市民のための環境公開講座 12/8（水）13:30 - 14:45

損害保険ジャパン株式会社、公益財団法人 SOMPO 環境財団、JEEF の三者共催で取り組む NGO×企業のパートナーシップ事業の先駆け的な事業「市民のための環境公開講座」が開催されます。

今回は「食品ロスをなくす方法～日本と世界の食ロス削減最前線」をテーマに、食品ロス問題ジャーナリストの井出留美氏と、ダンボールコンポストの普及に取り組む永田由利子氏の対談を通して、毎日の暮らしの中で私たちに何ができるのかを学び、考えます。

◆自然学校ナイト 12/10（金）18:30 - 20:00

自然学校にかかわる人、自然学校とかかわりたい人集まれ！

現役の職員、元職員、自然学校で働きたい学生、自然学校とお仕事をしたい人、興味があればだれでも参加できます。新型コロナ後にニーズが高まると予想される自然学校の今とこれからの、ざっくばらんにぶつけ合ひましょう。

地域や世代を超えて全国に仲間ができるだけでなく、課題意識を共有したり、最近の気づきを紹介したり、ゆるく熱い90分です！

◆自然学校オンラインツアー 12/11（土）10:00 - 11:30

今年の清里ミーティングではオンラインの特徴を活かして、全国の自然学校（※）を見学する「自然学校オンラインツアー」を開催します！宮城・静岡・沖縄それぞれの自然を楽しみつつ、どのようなフィールドで活動しているのかをみんなで見学しましょう！

※地域の自然を舞台に自然体験やエコツアー等を提供する事業者

<今回のツアー先>

くりこま高原自然学校（宮城県） 田貫湖ふれあい自然塾（静岡県） よみたん自然学校（沖縄県）

# 清里ミーティングこれまでの実績

## 第1回清里フォーラム

- 日時：1987年9月28日(月)～29日(火)
- 参加人数：93人
- 主催：清里フォーラム実行委員会
- 【分科会】①環境教育について(考え方とその論理)  
②自然観察の中に今後とこんでいきたいもの  
③指導者とボランティアの養成を今後どうするか  
④施設運営とコーディネーターの在り方について  
⑤自然観察の有料化について  
⑥清里フォーラムの将来性・方向性について
- ゲスト：加藤幸子(小池しげんの子)

## 第2回清里環境教育フォーラム

- 日時：1988年11月13日(日)～15日(火)
- 参加人数：151人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/山梨県
- 【分科会】  
前半 ①学校と環境教育 後半 ①地域・開発と環境教育  
②地域社会と環境教育 ②施設と環境教育  
③施設と環境教育 ③人づくりと環境教育  
④自然観察と環境教育 ④市民・行政・企業・学校の協力  
⑤企業と環境教育 ⑤環境教育の目的と方法  
⑥学校と環境教育  
⑦企業と環境教育
- ゲスト：ロバート・ピナウィーズ(元ヨセミア国立公園管理事務所長)

## 第3回清里環境教育フォーラム

- 日時：1989年11月12日(日)～14日(火)
- 参加人数：168人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①小中高における環境教育カリキュラム  
②若い世代に楽しいプログラムとは  
③環境教育をうまく経営していくためには  
④環境教育の場でボランティアが活躍できるためには  
⑤環境教育で村おこしができるか  
⑥大学における環境教育
- ゲスト：ジェームス・サノ(元マリン・ディスカバリーズ専務理事)

## 第4回清里環境教育フォーラム

- 日時：1990年11月18日(日)～20日(火)
- 参加人数：163人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会/(財)日本環境協会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①学校教育 ②事業化  
③プログラム ④人づくり  
⑤施設 ⑥地域開発・村おこし
- ※この年4月より上記6つの研究部会が発足。
- ゲスト：ジョセフ・コーネル(ネイチャーゲーム考案者)

## 第5回清里環境教育フォーラム

- 日時：1991年11月17日(日)～19日(火)
- 参加人数：187人
- 主催：清里環境教育フォーラム実行委員会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①学校 ②事業化 ③プログラム  
④人づくり ⑤施設 ⑥地域社会
- ゲスト：スティーブン・メドレー(ヨセミア・アソシエーション会長)

- \*1992年9月 任意団体 日本環境教育フォーラム発足
- \*1992年7月 「日本型環境教育の提案」発刊

## 日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '92(通算6回)

- 日時：1992年9月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：132人
- 主催：日本環境教育フォーラム設立準備会
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【紹介WS】①エコツアー報告・ヨセミア自然学校  
②New School of Conservationにおける環境教育  
③ペンギンリザーブ活動報告  
④国際理解教育・資料情報センター活動紹介  
⑤フィールドミュージアムごっこ  
⑥環境教育国際セミナーに参加して  
⑦成城学園における「散歩」遊び
- 【体験WS】①さあ、みんなでやってみよう！開発教育シミュレーション  
②エコロジーキャンプつまみぐいハイイク  
③ネイチャーゲーム入門  
④もしフィールドでけがをしたら  
⑤PLTプログラムの紹介
- 【分科会】①学校での環境教育  
②地域に根ざした環境教育  
③エコツーリズムの可能性とその問題点  
④環境教育のプログラム教材開発  
⑤指導者養成について  
⑥エコマネジメントのしかた

## 日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '93(通算7回)

- 日時：1993年11月14日(日)～16日(火)
- 参加人数：154人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②死の準備教育の試み  
③マインドクロッキー ④パートナーシップへの挑戦  
⑤究極の自然観察会 ⑥たずね鳥をさがせ
- 【分科会】①プログラム ②施設 ③学校  
④人づくり ⑤企業 ⑥地域・自治体  
⑦エコツーリズム ⑧海外の国立公園情報
- ゲスト：アン・ロベッタ(ストーリーテラー)

## 日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '94(通算8回)

- 日時：1994年11月27日(日)～29日(火)
- 参加人数：167人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②ファイブ・トリック  
③森の宝箱をつくらう ④地球救出作戦  
⑤枯れ木に花を咲かせよう ⑥清里・冬物語
- 【分科会】①企業 ②エコツーリズム ③都市環境教育 ④ネイチャー  
トレイル ⑤自然学校  
⑥ネイチャーライティング ⑦フォーラム塾
- ゲスト：ジョン・エルダー(ミドルベリー大学英語学・環境学教授)

## 日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '95(通算9回)

- 日時：1995年11月25日(土)～27日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①自然学校としての施設づくり②行政・自然学校  
③自然学校の経営を考える ④自然学校の人材育成  
⑤自然学校のプログラム
- 【WS】①写真で環境教育 ②あなたにとって出会いとは何ですか  
③環境教育を企画・プロデュースする  
④ソフトクリーム姉ちゃんをねええ！  
⑤未知なる可能性を求めて  
⑥キープ・フォレスト・スクール®のプログラム体験  
⑦ネイチャーゲーム、アジアと環境教育  
⑧独特な日本人に有効な環境教育戦略は？  
⑨アース・アート ⑩メディアワークショップ

## 日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '96(通算10回)

- 日時：1996年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：174人
- 主催：日本環境教育フォーラム
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①自然学校の「事業化」  
②自然学校でのプログラム  
③地域振興と環境教育  
④環境保全活動がそのまま環境教育  
⑤エコツーリズムの様々な可能性  
⑥JEEFの法人化など今後の可能性
- 【ワークショップ】  
①ネイチャーゲーム入門講座  
②ネイチャーエクスポアリング  
③清里での川の環境教育を考える  
④「子供であそぼう」についての御紹介  
⑤元気がでる自然観察  
⑥環境教育の本質を考える  
⑦環境教育を企画・プロデュースする  
⑧清里で「海の環境教育」を考えよう  
⑨自然をテーマにしたスライドショー  
⑩自分への気づきとNGO  
⑪清里インターネット通信社へようこそ  
⑫森だくさんの自然体験  
⑬まちを遊ぼう  
⑭未知なる可能性を求めて  
⑮エコビレッジを作ろう  
⑯アクティビティの「バクリとアレンジャローカライズ」

## ※1997年4月 環境庁主管の法人格を取得、社団法人日本環境教育フォーラム設立

## (社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '97(通算11回)

- 日時：1997年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：170人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁/文部省/山梨県
- 【分科会】①環境教育の指導者養成  
②環境教育の新しいプログラム開発  
③環境教育とまちづくり  
④環境教育の情報の発掘と提供  
⑤企業や行政とどのように組むのか？  
⑥新しい交流集会のスタイル
- 【WS】①ネイチャーゲーム入門講座  
②自然と心・心とひとのコミュニケーション  
③環境教育の服装計画を考える  
④出たところ勝負の自然観察会+人間ウォッチング  
⑤環境教育を企画プロデュースする

- ⑥環境教育と経営と税金
- ⑦インタープリティブサインをつくらう
- ⑧ディープエコロジー・ミニワークショップ
- ⑨フィリピン流！演劇ワークショップのすすめ
- ⑩安全管理チェックリストをつくってみよう
- ⑪ネイチャーエクスプロアリングコースづくり
- ⑫水辺でさがすいろいろなつながらり
- ⑬アクティビティと小道具
- ⑭キープの自然体験プログラム
- ⑮博物館をつくらう！
- ⑯野外における企業研修の実際とその可能性

- ③地球と私の合作づくり「1枚の葉」
- ④見て、聴いて、感じて・・・朝の森でネイチャーゲーム
- ⑤早朝ジョギングワークショップ
- ⑥キモチときもちをつないだら

- スライドプレゼンテーション
- JEEF理事による3分トーク

**(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '98(通算12回)**

- 日時：1998年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：176人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
  - ①公共事業における環境教育の役割
  - ②森林・里山における環境教育と地域振興
  - ③アメリカの環境教育プログラムの日本への導入
  - ④動物と関わる環境教育
  - ⑤日本型エコツーリズムについて
  - ⑥メディアと環境、その先にあるもの
- 【ワークショップ】
  - ①環境教育個人商店を考える
    - ②私のきもち、みんなのきもち、地球のきもち
    - ③21世紀のインタープリテーションを求めて
    - ④おきらく やまんの部屋
    - ⑤プロジェクトワイルド「水生生物」に学ぶ
    - ⑥エコマネーのすすめ
    - ⑦もし参加者が野外でケガをしたら
    - ⑧ネイチャーエクスプロアリング
    - ⑨エコスピリチュアルワークの試み
    - ⑩アクティビティ大賞実施編・体験編
    - ⑪これまでの50年とこれからの50年
    - ⑫川を設計してみよう
    - ⑬「おもい」を「かたち」はじめの一步
    - ⑭自然学校でめしが喰えるか

**(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '99(通算13回)**

- テーマ：「学ぶ心・育つ力」
- 日時：1999年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：185人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
  - ①自然学校の運営を考える
  - ②「総合的な学習の時間」で学校と地域をつなぐ
  - ③都市型の生活環境をテーマにした遊び場づくり
  - ④森から見つめる川と海
  - ⑤エコツーリズム一歩前へ
  - ⑥見つめよう地域の里山、伝えよう里山の魅力
  - ⑦チルデンを越える！
  - ⑧教育を考える
- 【早朝 WS】
  - ①カラスのきもち
  - ②朝のティータム
  - ③きもちとキモチをつないだら
  - ④五感で感じよう清里の自然
  - ⑤オカリナ・ハナリナ体験教室

**(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2000(通算14回)**

- テーマ：「原点を見つめよう」
- 日時：2000年11月11日(土)～20日(月)
- 参加人数：171人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
  - ①野外での救急法を覚えよう
  - ②ネイチャーウォッチング in 清里
  - ③清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
  - ④心と体で感じよう！ネイチャーゲームが案内する清里の自然
  - ⑤竹を使ったものづくり
  - ⑥羊の毛から糸つむぎ教室
  - ⑦自分という自然に出会う
  - ⑧Frog(カエル)
  - ⑨プロジェクト・アドベンチャー
- 【分科会】
  - ①自然体験活動における体験学習法
  - ②ゆったり楽しむ ノスタルジーワーク
  - ③虫を知る・入門
  - ④「センス・オブ・ワンダー」って何だ？
  - ⑤学校ピオトープの可能性
  - ⑥五感を使って楽しみながら自然探検
  - ⑦環境教育とスピリチュアリティ
  - ⑧企業・行政マン向け環境教育テキスト作り
  - ⑨自然学校のPR活動を考える
  - ⑩Out of Treasure Boxes
  - ⑪民話・ことわざから考える日本人と川の関係
  - ⑫エコツーリズムのビジネスネットワークを考える
  - ⑬表現を楽しもう！「シアターゲーム」
- 【早朝 WS】
  - ①野遊び手遊び発見隊
  - ②センス・オブ・ワンダーの体験

**(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2001(通算15回)**

- 日時：2001年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／農林水産省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
  - ①清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
  - ②初心者歓迎！清里の自然をネイチャーゲームで楽しもう
  - ③秋の味覚を楽しもう！
  - ④「ほっ♪」となるたき火講座
  - ⑤身体感覚講座
  - ⑥The Bear(ひぐまの生き方、暮らし方)
  - ⑦プロジェクト・アドベンチャー
  - ⑧やまねミュージアムへ行こう
- 【分科会】
  - ①総合的な学習の教材として「拾ったもの(生きものに関連するもの)を活用する」
  - ②「いまだき」の子ども・「いまだき」の親 改造計画！
  - ③博覧会を環境教育という視点から評価する
  - ④ゆったり過ごすやまね流ネイチャーワーク
  - ⑤ワークショップという新しい学び方をめぐって
  - ⑥朝からイキナリ！若者で語ろう！の会
  - ⑦小さな子どもたちのための環境教育の「技」をさぐる
  - ⑧地域の昔話を中心にした環境教育
  - ⑨農業と林業を語ろう！農業者と林業者と語る環境教育
  - ⑩Environmental Education in English
  - ⑪北九州博、きらら博で行われた環境教育プログラムはこれだ！
  - ⑫テロ・戦争に関してわかちあう
  - ⑬環境教育基礎講座
  - ⑭GEMSの体験プログラム
  - ⑮自然学校で働くこと
  - ⑯センス・オブ・ワンダー
  - ⑰ネイチャーエクスプロアリングライトの体験と総合的な学習の時間に活かせる活動事例
  - ⑱田んぼから生まれる日本型環境教育

- 【早朝 WS】
  - ①センス・オブ・ワンダーを楽しむ
  - ②早朝ジョギングワークショップ
  - スライドプレゼンテーション
  - 参加者による3分トーク「ここが変だよ！環境教育」

**(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2002(通算16回)**

- テーマ：「胎動」
- 日時：2002年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：182人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 環境教育ミニレクチャー
- ヨハネスブルグ・サミット報告
- 参加者による3分トーク「環境教育 次のキーワードはこれ!!」
- 【ワークショップ】
  - ①地域通貨ってなんだろう？
  - ②折り紙を使った環境教育の試み(3)
  - ③幼稚園、保育園に環境教育を導入しよう
  - ④環境問題、エコロジカルアートからの試み
  - ⑤環境教育指導者と研究者、カリキュラム開発者のつながりを作ろう
  - ⑥体験主義を超えて・・・プロジェクト・ワイルドの世界
  - ⑦「自然の中で働く男性はオパチャン度が高い??」を証明したい!!
  - ⑧未来へ、世界へ、感動をどうつなぐのか
  - ⑨ひよこのキモチ
  - ⑩モアイは何を見たか
  - ⑪Environmental Education in English
  - ⑫持続可能な開発と環境教育
  - ⑬森の交響サイン計画づくり
  - ⑭サロンの語り場
- 【早朝 WS】
  - ①早朝ジョギングワークショップ
  - ②清里ミニガイドツアーA
  - ③清里ミニガイドツアーB
  - ④モンゴル茶で朝を迎えよう
  - ⑤清里ミニガイドツアーC
- スライドプレゼンテーション

**(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2003(通算17回)**

- キーワード：持続可能な開発のための教育
- 日時：2003年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：208人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 【全体会】
  - ・科学と環境教育をつなぐミーティング(前夜祭)の報告
  - ・環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律

- ・持続可能な開発のための教育 (ESD)
- ・スライド&トーク ーオローニの日々

**【WS&体験 PRG】**

- ①ウラっていいとも
- ②社会教育ゲーム体験プログラム 投資意志決定ゲーム Chemical
- ③参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/AM
- ④総合学習への NPO 参画が期待されているけど、実現が難しいのは何故?
- ⑤エコ・ネイションゲーム
- ⑥忙しい!!! けど前向きに レベルアップシートを作ろう
- ⑦科学するココロを育てよう!
- ⑧参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/PM
- ⑨野生生物教育の現状と課題
- ⑩フォーラム企業部会をリセットして、今後の方向性を考えよう!
- ⑪「持続可能な人」づくり
- ⑫開府 400 年! 江戸町民の循環型社会から学ぶごみ減量大作戦
- ⑬どうなる? どうする? 日本環境教育フォーラムの未来
- ⑭子育てという環境
- ⑮地方発! 食農発信!
- ⑯環境教育の中の行政の役割を考えよう!

**【早朝 WS】**

- ①センス・オブ・ワンダー
  - ②清里ミニガイドツアー 富士山とせせらぎの小径コース
  - ③清里ミニガイドツアー めしの木コース
- スライドプレゼンテーション

**【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2004(通算 18 回)**

- キーワード: 「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
- 日時: 2004 年 11 月 13 日(土)~15 日(月)
- 参加人数: 187 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県
- 【全体会】
- ・「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
  - ・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を考える

**【WS&体験 PRG】**

- ①エコワリズムという生き方
  - ②科学と環境教育
  - ③地場産小麦でパンをつくらう!
  - ④環境立国 エコ・ネイションゲーム
  - ⑤「センス・オブ・ワンダーからグリーンコンシューマーへ」  
~第 1 回清里「エコ商品コンテスト」~
  - ⑥持続可能な地域づくりにつながるネイチャーゲーム体験
  - ⑦体験学習への扉をひらく(午前の部)
  - ⑧自然学校の動きと人材養成
  - ⑨環境教育 in 国際協力 最前線!
  - ⑩環境教育基礎講座「環境教育と自然体験」
  - ⑪酵母を育てて、パンを作ろう!
- ~酵母が教えてくれる、命、自然とのつながり~
- ⑫石器時代に接近! モノはこうして作る ~シエラカップ~
  - ⑬いのちを伝える自然体験  
~自分流健康な生きかたを学ぶ~
  - ⑭ボードゲーム型の環境教育プログラム
  - ⑮体験学習への扉をひらく(午後の部)
  - ⑯「1 億円のプロデュース」

**【特別ワークショップ】**

- バーム油のはなし ~開発教育入門講座~

**【早朝 WS】**

- ①早朝ジョギングワークショップ
  - ②センス・オブ・ワンダーって、こんなに楽しく気持ちいい
  - ③清里ミニガイドツアー めしの木コース
- スライドプレゼンテーション・5 分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 公開理事対談

**【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2005(通算 19 回)**

- キーワード: 「自然を舞台にした環境教育は、持続可能な社会づくりに具体的にどのよう役に立ってきたのか」
- 日時: 2005 年 11 月 19 日(土)~21 日(月)
- 参加人数: 221 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会: 基調講演、5 分間スピーチ、パネルディスカッション
- 【WS&体験 PRG】**
- ①環境教育基礎講座(午前の部)
  - ②自然学校って何だ?
  - ③学校教育と環境教育
  - ④ボードゲーム型の環境教育プログラム
  - ⑤ひとりひとりの感性で自然を感じよう  
~ネイチャーゲームでのんびりぶらぶら~
  - ⑥セルフガイドシートを使用した、短時間、多人数対象プログラムの検証 ~セルフガイドシートの評価軸を作ろう~
  - ⑦科学ってなんだろうと考えながら皆で遊ぼう!  
~低学年向けの GEMS プログラムを通して~
  - ⑧森林療法
  - ⑨プロジェクト WE T 体験会(午前の部)
  - ⑩環境教育基礎講座(午後の部)
  - ⑪自然学校の評価に向けた人材養成
  - ⑫小さな町村での自然学校の役割と可能性を探る
  - ⑬CSR と環境教育
  - ⑭おいしく食べ続けていける社会づくりは……
  - ⑮里山で音楽会

- ⑯樹木年輪から樹の声を聴く方法! ~過去からの環境の変化を迎える~
- ⑰プロジェクト WE T 体験会(午後の部)
- ⑱科学と環境教育 見直そう! あなたのインタープリテーション  
~持続可能な社会づくりに自然科学知を活かすために

- 【早朝 WS】**
- ①早朝ジョギングワークショップ
  - ②座禅&ヨガ
  - ③清里ミニガイドツアー

- スライドプレゼンテーション・5 分で伝えるメッセージスライド
- JEEF 活動報告

**【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2006(通算 20 回)**

- 日時: 2006 年 11 月 18 日(土)~20 日(月)
- 参加人数: 224 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会「日本の環境教育 この 20 年を振り返る」基調講演
- 学長鼎談「大学と環境教育」

**【WS&体験 PRG】**

- ①自然学校を事業化する  
~20 年間に自然学校は何を獲得したのか~
  - ②団体・組織におけるリスクマネジメントを考える
  - ③あなたにとって食育ってなに?
  - ④環境教育基礎講座
  - ⑤新型の起業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
  - ⑥学びとコミュニケーション  
~GEMS プログラムの体験を通して~
  - ⑦ESD の実践のポイントを探る  
~みんなで話せばわかってくる!~
  - ⑧森林環境教育のすすめ ~木が好きになるプログラム~
  - ⑨50 分プレゼンテーション(午前の部)
  - ⑩企業と NPO との協働を考える戦略会議
  - ⑪環境教育と ESD(持続可能な開発のための教育)の関係性を探る
  - ⑫環境教育と地域づくり
  - ⑬環境教育仕事塾
  - ⑭行政との連携を考える
  - ⑮太鼓で太古に退行するぞ!
  - ⑯木から樹を知る方法 ~木材を IP にいかす~
  - ⑰セルフガイドで使えるしかけ展示のモデルをつくらう
  - ⑱50 分プレゼンテーション(午後の部)
  - ⑲自然への感動を生み出し、ライフスタイルの転換を促す  
科学的知識の伝え方
  - ⑳感性? 科学? どっちのインタープリテーションショー
- 【早朝 WS】**
- ①早朝ジョギングワークショップ
  - ②環境質問 ~答えのない問題~
  - ③ロシアからやってきた冬鳥を探してみませんか
  - ④清里ミニガイドツアー
  - ⑤清泉寮 朝さんぽ

- 環境ショート映像作品上映会
- 今後の戦略会議
- スライドプレゼンテーション

**【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2007(通算 21 回)**

- 日時: 2007 年 11 月 17 日(土)~19 日(月)
- 参加人数: 230 人
- 主催: 社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管: 財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力: 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援: 環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 省庁プレゼンテーション
- 全体会: 「生物多様性」基調講演  
・第 3 次生物多様性国家戦略が目指すもの  
・企業が取り組む生物多様性保全

**【ワークショップ】**

- ①「生物多様性」の見つけ方・伝え方  
~自然体験活動を、生物多様性保護の教育活動に結びつける実際の方法~
  - ②行政との協働を考える
  - ③学ぶ環境としてのコミュニケーション ~GEMS とゴードンメソッド~
  - ④食育コミュニティをつくらう!
  - ⑤どこでもインタープリテーション! ~グッズ展開型 IP~
  - ⑥関西発! これからは日本的でいいこう!!
  - ⑦新型の企業研修を応用したスタッフ研修ゲーム  
スピード・ソリューション~自然学校版~
  - ⑧企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
  - ⑨ツリークライミング? 樹上の世界から学ぶこと
  - ⑩50 分プレゼンテーション
  - ⑪企業と環境 NPO との協働を進める戦略会議
  - ⑫ESD を広める人のための「ESD 入門講座」
  - ⑬環境教育基礎講座
  - ⑭生物多様性と環境教育について
  - ⑮科学と環境教育 自然体験からライフスタイルの転換へ  
~ヤマネのプログラム体験を通じて~
  - ⑯メディアと自然学校
  - ⑰環境経営戦略ゲーム体験会
  - ⑱体験型展示物を評価しよう
  - ⑲エコワリスト予備軍を探せ・つかめ・そして楽しめ!
  - ⑳障害者と共に楽しみ・学ぶ森林環境教育
  - ㉑やってみよう!! 体感ツリークライミング⑩の世界
- 【早朝 WS】**
- ①早朝ジョギングワークショップ
  - ②センス・オブ・ワンダーを楽しむ散歩
  - ③清里ミニガイドツアー

- 今が旬の活動事例紹介
- スライドプレゼンテーション
- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

**(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2008(通算 22 回)**

- 日時：2008年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：192人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会：「日本型環境教育の知恵 出版記念」～日本型環境教育とは～

**【ワークショップ】**

- ①科学と環境教育 ヤマネに学ぶエコロジカルな暮らし方
- ②生き物との共生について ～どんな共生があるのか～
- ③環境教育&ESDを”広げる×深める”政策を考えよう
- ④お互いの関係を作るコミュニケーションスキル
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ!
- ⑥エコとエネをつなぐ環境教育を考える
- ⑦森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑧環境教育を評価する「環境教育を棚卸しましょう」
- ⑨企業・NPO・学校の連携による環境教育を考える
- ⑩企業のための環境 NPO カタログ編集会議
- ⑪どうする!《限界集落》またの名は《上流社会》
- ⑫科学と環境教育総集編 科学と環境教育の関わりを定義する
- ⑬オオバコすもうで勝つ方法! 理学系研究室の自然体験
- ⑭川遊びのルールを広めよう
- ⑮日本型、日本的を考える ～日本の自然観という視点～
- ⑯地球環境カードゲーム マイアースを遊ぶくす
- ⑰障害者と共につむぐ環境教育の企画をつくる!
- ⑱森づくりのための戦略会議 ～行政・企業・NPOの協働～

**【早朝 WS】**

- ①砂鉄から鉄を作ろう! 柿崎の製鉄遺跡と自然のかかわり
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おぼあちゃんのお家ツアー
- ③清里の森で宝物発見
- ④ロシアから渡ってきた鳥と出会しましょう
- ⑤清里ミニガイドツアー

**■環境教育プレゼンテーション**

- 今後の戦略会議
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

**(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2009(通算 23 回)**

- テーマ：「生物多様性」～環境教育の役割～
- 日時：2009年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：193人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会

**■全体会**

- ・基調講演「生物多様性」とは何か? 行政・企業・NGO から
- ・事例紹介「生物多様性 私はいこう伝える」
- ・全体ディスカッション

**【ワークショップ】**

- ①自然体験型環境教育基礎講座
  - ②多様な生物の声を聴く～全生命の集いワークショップ～
  - ③科学的な視点を活かした環境教育のプログラム作り
  - ④企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
  - ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ! Part2
  - ⑥風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
  - ⑦パーマカルチャーと環境教育
  - ⑧幼児～小2に伝える生物多様性～生物多様性の形を探る～
  - ⑩ビジターセンターを運営側から考え創る方法
  - ⑪あなたにとって、生物多様性って何?
  - ⑫生物多様性に焦点を当てたプロジェクト・ワイルド体験
  - ⑬人間界に多様性は確保されているか
  - ⑭日本の森林環境教育と Project Learning Tree
  - ⑮どうプログラム化しよう? 自然学校の「エネルギー」
  - ⑯風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
  - ⑰日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
  - ⑱エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part2
  - ⑲事故防止～注意を促すだけでいいの? 実践的予防安全法
  - ⑳トランジションタウンとは何か? 都留での試み
- (注) ⑦川遊びを始めよう! ～川の安全管理トレーニング～ は、都合により中止

**【早朝 WS】**

- ①生物多様性を映像で感じよう ～いっしょに生きる道～
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おぼあちゃんのお家ツアー
- ③ゼロからの火おこし術

**■環境教育プレゼンテーション**

- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

※2010年6月 公益社団法人への移行認定を取得、公益社団法人日本環境教育フォーラムへ。

**(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2010(通算 24 回)**

- テーマ：「いのちをつなぐ環境教育」
- 日時：2010年11月13日(土)～15日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会

**■全体会**

- ・基調講演「生物多様性条約第10回締約国会議の結果」
- ・提案「生物多様性保全に果たす ESD の取組について」
- ・提案「What is CEPA??」
- ・取組紹介「環境省における ESD の取組について」
- ・全体ディスカッション

**【ワークショップ】**

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②日本の自然観から考える環境教育
- ③農的暮らしの学校
- ④自然感を耕す：人は心を、畑は土を、森はデザイン感を
- ⑤生物多様性まんだらカードゲーム体験会
- ⑥生物多様性条約の CEPA って何だ?
- ⑦企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑧エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part3
- ⑩「サステナビリティ」の基本はこれだ! ※
- ⑪これだけは知っておきたい! 生物多様性の基礎知識 ※
- ⑫生物多様性を普及する環境教育を目指して
- ⑬森を考える～木質バイオマスで100年先の森づくり～
- ⑭大学生のための食育プログラム
- ⑮命をいただく～ワトリと生きる～
- ⑯エコロジカル・シンキングゲーム
- ⑰「地球交響曲第7番」を見て、みんなで語ろう!
- ⑱イナカとこどもと日本の未来を考える
- ⑲企業の行なう自然体験活動と地域のつながりを考える

※の印は、主催者企画ワークショップ

(注) ⑨海外での環境教育(保全)活動を日本でどう伝えていくかは、都合により中止

**【早朝 WS】**

- ①バードコールハイク
- ②多様性を感じる観察会
- ③ゼロからの火おこし術
- ④朝飯前の手仕事
- ⑤朝日をあびつつ、ミルクティー飲んでごあいさつ
- ⑥生き方を学ぶ自然観察
- ⑦ノルディックウォークで早朝散歩
- ⑧映画「西の魔女が死んだ」 おぼあちゃんのお家ツアー
- ⑨みみをすませば～みんなでつくるいのちのものがたり～

**■環境教育プレゼンテーション**

- 当日募集ワークショップ
- JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い
- JEEF 理事の何でも相談所

**(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2011(通算 25 回)**

- テーマ：「これからの日本の復興に環境教育がどう役割を果たすのか」
- 日時：2011年11月19日(土)～21日(月)
- 参加人数：188人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/経済産業省/山梨県/日本環境教育学会

**■全体会 1**

- ・パネルディスカッション
- 「これからの日本の復興に環境教育がどう役割を果たすのか」

**【ワークショップ】**

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②企業・NPO・学校連携の環境教育を考える VOL.2
- ③質的データ分析(QDA)という手法を学ぶ
- ④農的暮らしの自然学校
- ⑤森林療法にできること～森林セルフケアの可能性
- ⑥里山応援ネットワークを作ろう! ワークショップ
- ⑦0から仕事を作る～体験からチームを作る～
- ⑧『ワールドカフェ～自分発! 未来をかける価値観考～』
- ⑨修験道×環境教育～音色と歩き、体で精神性を感じる～
- ⑩震災救援組織(RQ 市民災害救援センター)の作り方 ※
- ⑪ESD×CSR：サステナビリティ教育指針を体感! ※
- ⑫やったらできた! エネルギー系企業と弱小 NPO のコラボ
- ⑬環境と文化・歴史・科学 etc. の複合…「旧暦」入門
- ⑭自然感を耕す 自分と里山里山水が元気になるワーク
- ⑮生物多様性まんだらカードゲーム 今年小学生版
- ⑯PLT, WILD, WET の日本の可能性を考えよう
- ⑰日本的、アジア的自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑱原発と環境教育～思ったことを話すことからはじめよう～
- ⑲狩猟×環境教育～森と野生動物と人のつきあい方～

※の印は主催者企画ワークショップ

**【早朝 WS】**

- ①ゼロから始める火おこし術
- ②森林療法のプログラム体験～樹林気功と運動療法
- ③冬鳥と出会って、いのちを感じる
- ④キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー

**■環境教育プレゼンテーション**

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

**【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2012(通算 26 回)】**

- テーマ：「アジアの一員として、日本が今できること ～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
- 日時：2012年11月17日(土)～19日(月)
- 参加人数：177人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会

- 全体会
    - ・「アジアの一員として、日本が今できること ～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
    - ・基調講演「リオ+20の概要と、NGOの成果と課題」
    - ・パネルディスカッション
- 「これからの日本の復興に環境教育がどういった役割を果たすのか」

- 【ワークショップ】
- ①自然体験型環境教育入門講座
- ②自然学校人事担当養成講座～ほしい人材を育てよう～
- ③実施無し
- ④プーさんの森をデザインしよう！
- ⑤考えよう！伝えよう！森の“いのち”の知恵と力
- ⑥食から考える価値と暮らし
- ⑦ねん土をつかって、超ミニアースオープンをつくろう！
- ⑧農村と若者～そと者、若者による農山村の活性化～
- ⑨一次産業と社会貢献事業～金の切れ目が本気のはじまり
- ⑩「住み開き」を考えよう ～身近に環境教育の場をつくる～
- ⑪「都市と自然の融合～両方見て、初めて見える環境教育！～」
- ⑫木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及をめざして～①
- ⑬地域に根ざすということについて PBEへの招待
- ⑭田舎で生きる！ライフモデル作りワークショップ
- ⑮バトニアから学ぶ！持続可能な働き方と歩み方
- ⑯環境教育×植物療法～自然の恵みをヒトの力に～
- ⑰都市型環境教育 小学生向け紫外線プログラム体験
- ⑱文学から見た農的暮らしの可能性
- ⑲理想のシゴト？自然学校職員の本音と未来像
- ⑳身近な環境の総合的“明察”…内なる“マイ厩”を作ろう！
- ㉑農がXを助け、Xが農を助ける～半農半NPOでいこう～
- ㉒エコとエネのつながりを考えるカードゲームワークショップ
- ㉓森で教える国語・算数・理科・社会をつくらせよう！
- ㉔木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及へ向けて～②

- 【早朝 WS】
- ①科学と環境教育プログラム「静岡のなりたち」
- ②みどりともだち！泥んこ遊び de 苦玉作り
- ③キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー
- 環境教育プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

**【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2013(通算 27 回)】**

- 日時：2013年11月16日(土)～18日(月)
- 参加人数：204人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/国土交通省/経済産業省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会

- 全体会
  - ・キーンノートスピーチ
  - ・ワールドカフェ方式ディスカッション
  - ・「環境教育に関わる諸団体から最新のメッセージを聞く」

- 【ワークショップ】
- ①自分の仕事を創る技術～IPの新しい可能性を考える～
- ②地域に根ざした環境教育 Place-Based-Education
- ③モミでご飯をたこう！～空き缶で「ミニかまど」づくり～
- ④宇宙船地球号体感インプリ：20世紀天文少年の誘い
- ⑤環境教育をカードゲームで考えてみよう～エネルギー編
- ⑥「原発事故のはなし3」デモとディスカッション
- ⑦質的データ分析(QDA)を体験してみよう
- ⑧企業とNGOの幸せな関係をながく続ける秘訣
- ⑨楽器を使ったプレゼンテーションを考えよう
- ⑩知っておきたい基礎知識～命・自然・地球・宇宙～
- ⑪日常の現場や暮らしに持ち帰る“運営と振り返り”
- ⑫持続可能な地域のための必要なくみを考えよう
- ⑬継承したい日本の自然観～自然体という生き方～
- ⑭事例から学ぶ ESD(持続発展教育)の基本と実践
- ⑮ゲームで生態系を学ぼう！
- ⑯ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術～
- ⑰パフォーマンス評価の世界の潮流
- ⑱15年のノウハウ伝授！身近な素材でプログラムづくり
- ⑲小学校で環境教育やりたい人 集まれ！
- ⑳伝える技術 KP 法(紙芝居プレゼンテーション法)

- 【早朝 WS】
- ①アイソン彗星いつ観るか…清里、澄んだ空…今でしょ！
- ②ロシアからの旅人に会おう
- ③清里トレラン

- 【特別企画】
- ・アクアマリンふくしま移動水族館
- 【自主企画】
- ・プレゼンテーションで世界を変える！～TEDの世界～
- ・野外フェスは環境教育のツールになりえるか！？
- ・スマホ、テレビゲームの年齢制限でも考えてみよう
- ・JEEF 理事バンド(バンド演奏)
- 10分プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

**【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2014(通算 28 回)】**

- テーマ：「ESDの10年後の環境教育」
- 日時：2014年11月15日(土)～17日(月)
- 参加人数：186人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会
  - ・キーンノートスピーチ
  - ・基調報告 テーマ【ESD ユネスコ世界会議を終えて】
  - ・ワールドカフェ方式ディスカッション【私とESD】

- 【ワークショップ】
- ①自然の中で遊ぶゲーム
- ②再び、地域に根ざした環境教育(PBE)について
- ③企業のESDのあり姿/あるべき姿を考えよう
- ④「協働」による里山再生の取り組み～○○×○○～
- ⑤エネルギー大臣になろう～ゲームで考える環境教育～
- ⑥ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術
- ⑦楽器を使ってプレゼンテーションしよう
- ⑧語ろう！考えよう！「企業のESD宣言」
- ⑨電子絵本を活用したESDプログラムを考える
- ⑩国連の新目標(SDGs)は環境教育普及につながる？
- ⑪体感、出航！宇宙船地球丸「苦手は天文」ぶっ飛ばせ
- ⑫“自然学校と林業”環境教育は暮らしの生業に直結せよ！
- ⑬イノベーション創発型ワークショップのデザインを学ぶ
- ⑭清泉寮で自然音楽野外フェスティバルをつくる
- ⑮教育と刃物～ナイフを使う喜びを子どもたちに！
- ⑯シニア自然大学を作ろう
- ⑰自己肯定感を育むESD～これからの学びへの提案～
- ⑱GEMSの新しい使い方～森の中で 図書館の片隅で～
- ⑲KP法(紙芝居プレゼンテーション法)の工夫共有ワークショップ
- ⑳小学校で環境教育をやろう！Part II

- 【早朝 WS】
- ①朝の楽しい修行：ヨガと勤行
- ②環境教育と持続可能な開発の日米比較研究中間報告②
- ③エンカウンターグループ「今ここ」
- ④清里朝散歩
- 10分プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

**【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2015(通算 29 回)】**

- テーマ：「地域をつくる環境教育」
- 日時：2015年11月14日(土)～16日(月)
- 参加人数：174人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 特別協力：環境省グッドライフアワード
- 全体会
  - ・キーンノートスピーチ「農的生活学校の学び方」
  - ・ワールドカフェ方式ディスカッション「地域をつなぐ環境教育」
  - ・「世代を超えて一緒に○○おう！」

- 【ワークショップ】
- ①広範囲に拡散した外来種の市民による調査と駆除対策
- ②獣害問題は、環境教育の対象になるのか。
- ③エネルギー大臣になろう！～ゲームで考える環境教育～
- ④ご当地 GEMS～地域に根ざしたアクティブ・ラーニング～
- ⑤自然学校の30年を振り返りこれからの20年を考える
- ⑥環境教育の基礎…自然とは？命とは？
- ⑦「PBE：地域に根ざした学び」を考える
- ⑧「若者が地域で生きる・暮らす」を考える3時間
- ⑨里山ってなんだらう～その意味、価値を考える～
- ⑩野生生物と共生する環境地域づくりの進め方
- ⑪持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方
- ⑫サステイナブル・ツーリズム国際基準を自然学校に！
- ⑬体感、出航！宇宙船地球丸。「天文は苦手」吹っ飛ばせ
- ⑭探そう磨こう！環境教育の魅力を伝えるコトバ
- ⑮野外フェスに環境教育を広げる『NATCU FES』
- ⑯地域が蘇る“森林資源を循環させる経済”を考える
- ⑰廃校利用の自然学校の経営
- ⑱ピギナーのための自然体験型環境教育プログラム

- 【早朝 WS】
- ①朝の楽しい修行：ヨガと瞑想と歌
- ②手づくりのもみ穀コンロ、ペール缶めくくどの実演！
- ③ロシアからの旅人と再会しよう～冬鳥との出会いを求めて～
- ④清里朝散歩
- 10分プレゼンテーション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

**【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2016(通算 30 回)】**

- テーマ：「環境教育の未来を考える！あなたの次の一歩は？」
- 日時：2016年11月5日(土)～7日(月)
- 参加人数：196人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省/文部科学省/林野庁/山梨県/日本環境教育学会
- 全体会
  - ・スライドショー「これまでの環境教育をふりかえる」
  - ・パネルディスカッション「日中韓スウェーデンの環境教育比較研究」

・全員参加型ディスカッション

【ワークショップ】

- ①持続可能な社会づくり、企業の役割とは
- ②持続可能な暮らしの日常を体験する「いつもの暮らし」
- ③『エディブル・スクールヤード』をはじめよう！
- ④環境教育業界×私たち、若手の関わり方
- ⑤祝 30 周年☆清里ミーティングにまつわるコピーを作る
- ⑥自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て
- ⑦エネルギー大臣になろうワークショップ
- ⑧清里ミーティング「30+30」
- ⑨森の中でサイエンス～動物たちの生きる知恵
- ⑩“環境”＝“地球”を感じてみよう！天文のイロハ for 環境教育
- ⑪CEPA って何の略？地域をつくる湿地教育を考える
- ⑫森が薫る燻製づくり
- ⑬一流を学ぶ・・・第一印象と名刺交換
- ⑭「水の足跡」－スペース・ワークを使って－
- ⑮環境・CSR 活動評価チェックリストを使ってみよう
- ⑯海の森からの贈り物～海藻おしぼ～
- ⑰告知・広報に活かす”伝わる”、”伝える”文章講座
- ⑱環境教育と家族
- ⑲アクティビティを再生する
- ⑳野外での事故に備えよう！「野外・災害救急法」の体験
- ㉑いま「公害教育」を考える
- ㉒「いつもの暮らし」を環境教育プログラムに！
- ㉓「自然から学ぶ場と人の全国フォーラム」中間検討会
- ㉔SDGs でつなげる地域と活動ワークショップ
- ㉕銀粘土で作る リーフモチーフの純銀アクセサリ
- ㉖幻想は捨てよう！NPO と行政のミズを埋める 8 0 分
- ㉗火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり
- ㉘マジックで環境教育に活用する
- ㉙あげよう！特定外来生物駆除活動の輪！
- ㉚持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方 2

【早朝ワークショップ】

- ①ヨーガと瞑想
- ②甲虫の玉虫でアクセサリを制作してみよう
- ③冬鳥と出会い、地球を感じよう
- ④清里朝散歩

■10 分プレゼンテーション

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2017(通算 31 回)】

- テーマ：「組織・活動を変革する 17 の視点 ～SDGs でつくる私のアクション～」
- 日時：2017 年 11 月 18 日(土)～20 日(月)
- 参加人数：137 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、日本環境教育学会、持続可能な開発のための教育推進会議
- 全体会

- ・パネルディスカッション「SDGs に向けて教育は何ができるか」
- ・自分×SDGs で次のアクションを考える
- ・全員参加型ディスカッション～SDGs でつくる私のアクション～

■ワークショップ

【対話型ワークショップ】

- ①フライング・ワイルドの体験と SDGs との繋がり
  - ②SDG s ×わたし
  - ③協同学習の手法で環境教育をスキルアップしよう！
  - ④環境思想を考える
  - ⑤生きものの魅力で心を動かしたい
  - ⑥森林療法×環境教育～癒しが持つ SDGs への可能性
  - ⑦つなげよう！自然体験型エコツアーズと SDGs
  - ⑧CSR プログラム事例で学ぶ社会的インパクト評価
  - ⑨パートナーシップでつくる「キョソト」SDGs 企画
  - ⑩環境教育研究&実践から考える SDGs
- 【体験型 (E)・フレッシュパーソンズ (F) ワークショップ】
- ⑪持続可能な「ミライ」をつくる人材育成の在り方：F
  - ⑫森林療法～調和する自己の持続可能性：F
  - ⑬中止：野外活動を 120%楽しくする図鑑の読み方・使い方：F
  - ⑭火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり：E
  - ⑮KP 法で SDGs を整理してみよう：E
  - ⑯17 の SDGs で柔軟な頭を作るゲームを：E
  - ⑰アナログゲームで環境を学ぼう！：E
  - ⑱「教える」より「学びあう場」を創ろう！：E
  - ⑲中止：自然を使った深く自分と繋がる体験ワークショップ：F
  - ⑳「うんこ」から自然を見る～教材化の面白さと可能性：F
  - ㉑中止：環境ポータルサイト「BLUESHIP」の活用方法：F
  - ㉒自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て：E
  - ㉓既存のプログラムを SDGs ナイズ大作戦！GEMS 編：E
  - ㉔SDGs と森里川海、そしてライフスタイル：E
  - ㉕目からウロコ、環境教育のためのミニマム天文基礎講座：E
  - ㉖公害と SDGs JEEF・あおぞら財団の協働 FW：E
  - ㉗一体感を生み出す魔法の技術！アイズブレイク三連発♪：E
  - ㉘音楽フェス×環境教育@清里 超実践体感ワークショップ

【早朝ワークショップ】

- ①森林療法プログラム体験～樹林気功とグラウンディング
- ②ヨーガと瞑想
- ③甲虫の玉虫でアクセサリを制作してみよう
- ④マインドフルな自然体験
- ⑤冬鳥と出会い、地球を感じよう

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2018(通算 32 回)】

- テーマ：「ESD + SDGs ～ 未来を変える教育を考える」
- 日時：2018 年 11 月 16 日(金)～18 日(日)
- 参加人数：146 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会

■ワークショップ

【体験型ワークショップ・1】

- ①SDGs に果たす ESD の役割
- ②自然観察で知る生物多様性、命のあり方、人という生物
- ③学生版清里ミーティング実施に向けた作戦会議
- ④棚田米を土鍋で炊いて、味わい、お米の魅力を深める
- ⑤JOLA ～アウトドアで「未来のための人づくり」～

【対話型ワークショップ】

- ⑥SDGs for School 未来の教育デザイン
- ⑦エコヴィレッジ、災害に強いオフグリッドの居場所作り
- ⑧研修「設計」のススメ
- ⑨公害の経験から考える SDG s 達成に向けた課題
- ⑩災害支援と自然学校の役割
- ⑪美しい棚田を未来につなぐ 11 年の環境教育の実践
- ⑫ESD による地域創生の可能性
- ⑬エコ・自然塾
- ⑭野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議

【体験型ワークショップ・2】

- ⑮フルスイングの発酵ワークショップ
- ⑯読本「森里川海大好き！」を活かした環境教育へ
- ⑰森カフェ GEMS マタギさんと算数・自然の恵み山御膳
- ⑱歌の力、体感ワークショップ
- ⑲UNCO ゲーム開発のためのβ版体験ワークショップ
- ⑳教員向けエコ×エネ体験ツアーの手応えと可能性
- ㉑森で元気に！キープの「森林療法」ちょこっと体験☆
- ㉒ハラオチ納得！ジオガシキッチン教室
- ㉓「地域を活かした教育力」
- ㉔「九州・沖縄で暮らし続ける！」地域に根ざす SDGs

【早朝ワークショップ】

- ①ロシアからの旅人と再会しよう
- ②ヨーガと瞑想
- ③山珊瑚で根付を作ってみよう
- ④清里朝散歩

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2019(通算 33 回)】

- テーマ：「正解がない問いと共に生きる時代の人づくり」
- 日時：2019 年 11 月 15 日(金)～17 日(日)
- 参加人数：120 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会

- ・SDGs に捉われすぎていませんか？
- ・Learn (主体的な学び) と Unlearn (学びほぐし)

■ワークショップ

【90 分ワークショップ・1】

- ①社員を全員ファシリテーターに
- ②インタープリテーションをより効果的にする指標作成プロジェクト
- ③地球温暖化を逆転する 100 の方策ドローダウン紹介
- ④全く新しいアイデアで地球を救う本気スーパー脳嵐
- ⑤「静」のプログラムの可能性

【150 分ワークショップ】

- ⑥スマホから考える世界・わたし・SDGs
- ⑦カードゲーム“新”エネルギー大臣になろう！
- ⑧わたしたちの地域、みんなでどうする？～各地の事例から学び合おう！～
- ⑨野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議
- ⑩持続可能に海の資源を守るための取り組みを考える
- ⑪身体感覚の気づきから持続可能な社会について考えよう
- ⑫環境教育×中小企業！～パートナーシップで持続可能な事業をめざす～
- ⑬エコロジカル・シンキング カードで発想しよう！
- ⑭自然観察の基本、環境教育の基礎をおさえよう

【90 分ワークショップ・2】

- ⑮見ることに頼りすぎているかもしれない私たちへ。
- ⑯古今東西！環境教育ミーティング！
- ⑰ライブ&ダイアログ：自然の摂理を歌おう！
- ⑱ゲノム編集食品について問い合う
- ⑲林業×チームビルディングの可能性は？

【早朝ワークショップ】

- ①美しい玉虫の甲羅でアクセサリを作ってみよう。
- ②渡り鳥に出会い、季節や自然を感じよう！
- ③清里朝散歩♪
- ④ヨーガと瞑想

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

**(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2020(通算 34 回)**

- テーマ:「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時: 2020年12月6日(日)~12日(土)
- 参加人数: 303人
- 主催事務局: 公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 後援: 環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD活動支援センター  
関東地方 ESD活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、  
日本環境教育学会
- 全体会
  - ・全大会1「自然遊びで育つ“たくましさ”」
  - ・全大会2「世界の環境教育実践から学ぶ」
- ワークショップ
  1. インタープリテーション再入門  
~インタープリターが伝えるコミュニケーションと探求の極意
  2. トヨタ山田とグリーンウッド社が贈る!!  
トヨタ白川郷自然学校×校長山田氏×環境教育×学生=素敵な未来?
  3. どうなの?どうする?「プラスチックごみ」ワークショップ
  4. 渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える
  5. 地域に大学を!~地方創生に向けた教育改革
  6. オンラインでもハンズオン!~GEMS 入門編
  7. 大人だって絵本が好き!~SDGS とつなげよう
  8. 地域のビジター体験を充実させるためのガイド  
インタープリターのコンピテンシーとは
  9. CSO ラーニング卒業生のイマ  
~NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成
  10. 「複業」を始めてみよう
  11. コロナ時代の幕開けを語ろう~自然学校語り部屋
  12. 伝わるオンラインプレゼンテーション!  
~デジタル環境のあたらしいあたりまえ。
  13. 気候変動をさまざまな角度から見てみよう!  
~SDGs・環境教育・地方公共団体の観点から
  14. 『やまねミュージアム』オンラインツアーに挑戦!  
~オンラインにおける展示施設の可能性を考える
  15. あつまれ!清里の森の小劇場  
おうちからでも、森を楽しみたい人集まれ~!
  16. 環境教育×NVC-持続可能な未来を創る「対話」のちから
  17. グリーンスクール卒業生(日本人女性初)が語る「気候変動」と「環境教育」
  18. 馬との暮らし・自然の中で育つ、ちょっと気になる子ども達  
~感覚統合×自然体験・ホースセラピー
  19. 「森」×「健康」~リトリートの場としての森の可能性を考える
  20. JICA 海外協力隊カフェ~ベリーズ・ホンジュラス・キルギス編
  21. 東アジア地球市民村食堂  
~食事の風景から探る私たちの自然観と共通性
  22. ユースと語ろう!学校×環境教育のこれから
  23. 自分を満たす暮らしとは?  
自分だけのモバイルハウスをデザインしてみよう!
  24. SDGs にはこう取組むのがいいね!をみんなで考えよう。
  25. 地域に根ざした環境への取り組みとは  
~インドネシア駐在歴約 20 年の矢田さんをお迎えします
  26. 美しい棚田を未来につなぐ 14 年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう
  27. プラスチックさよなら大作戦~阿部ゼミ生に力を貸してください!!
  28. 【リレートーク】「読んでほしい」「知ってほしい」環境のこと
  29. 豊かな森を造る×脱炭素×地域活性化
  30. は・ず・む♪アイデア出しミーティング  
~3M のチームワークソリューションを学ぼう!
  31. 「エシカル・ツーリズム」の可能性~観光×「海ごみ」でまちづくり
  32. あなたが国の代表に!?なりきり国際環境会議!
  33. 海や自然と深くつながる。  
化石燃料を使わないサステナブルモニターツアー報告
  34. コロナ禍から先頭を切った音楽フェス「ハイライフハヶ岳」  
開催の決断と、その感染抑制の実際を赤裸々に伝え振り返る 90 分  
ペルー×青年海外協力隊~環境教育隊員の活動ご紹介!
  36. 内側と外側から自分とつながる Forest タイム
- その他のプログラム
  1. 情報交換会
  2. 理事×リジ×リジ=?
  3. 長沢裕×辻英之 特別ワークショップ
  4. 市民のための環境公開講座&特別座談会
  5. プータンの朝 LIVE
  6. 自然学校 NIGHT
  7. ふりかえり会

清里ミーティング 2021@オンライン報告書

発行者：公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF)

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1階

TEL : 03-5834-2897      FAX : 03-5834-2898

URL : <http://www.jeef.or.jp/>